

第 39 回内閣府独立行政法人評価等のための有識者懇談会議事要旨

大臣官房政策評価広報課

1. 日 時：令和 6 年 8 月 1 日（木）10：00～11：26

2. 場 所：中央合同庁舎第 8 号館 5 階共用 A 会議室

3. 出席委員：田邊座長、梅澤委員、千葉委員、牧原委員、山内委員

4. 議事概要

（1）（独）国立公文書館の令和 5 年度における年度評価案について

公文書管理課より、資料 1－1 を中心に説明がなされた後、委員からの主な意見等は以下のとおり。（委員からの修正意見なし）

・新型コロナウイルス感染症から立ち直りつつある中で、デジタル技術を活用した業務運営を適切に行い、全体的に数値目標を大きく上回った点、また、財務内容の改善に向けて、オリジナル商品の委託販売を行い、自己収入の増加を図った点は高く評価できると思う。

・デジタル展示ページビュー数が非常に多いというのはすばらしいこと、それ以上に、デジタルアーカイブの総ページビュー数が国立公文書館で 115%、データベース検索のページビュー数がアジア歴史資料センターで 101%と、公文書がどこでも見られることは非常に大きいことなので、引き続きデジタル化に取り組んでいただきたい。

・令和 6 年春の特別展「夢みる光源氏—公文書館で平安文学ナナメ読み！—」は、とても時流を読んだ、また、国立公文書館だからこそできる企画なので、引き続きこのような企画に取り組んでいただきたい。

・アーキビストの認証を行っているとのことで、このアーキビストのネットワークをどのようにするのが今後大きな課題になっていくと思う。

（2）（独）北方領土問題対策協会の令和 5 年度における年度評価案について

北方対策本部より、資料 2－1 を中心に説明がなされた。委員からの主な意見等は以下のとおり。（委員からの修正意見なし）

・四島交流等事業について、現状では実施することは難しいと理解しているが、そのような中で船舶「えとぴりか」の試験運航を実施することで、本事業の再開に備えている点は非常によいことと思う。引き続き、元島民等の方々に寄り添っていただきたい。

・青少年や教育関係者に対する啓発活動に当たり、協会 HP に掲載された学習教材集の質が高く、UI（ユーザーインターフェイス）やUX（ユーザーエクスペリエンス）の観点からも工夫されており、すばらしいと思う。青少

年に限らず、社会全般への啓発の材料としても使われているのではないかと推測する。厳しい環境下ではあるが、引き続き尽力してほしい。

・洋上慰霊を全6回実施されているとのことであるが、元島民の方々は何人ぐらい参加されているのか。

・国民世論の啓発については、特に青少年に対する関心の喚起が長らく課題であったと認識している。今回、学習教材集のダウンロード数が伸び、小中学生の関心の喚起については、非常に大きな成果を上げつつあると感じている。一方で、北方領土問題が存在していること自体を知らない若年層が増えつつあるとの印象を持っており、非常にいい教材ができ、授業で取り上げられているところも増えている中で、北方領土問題についての関心をより広げ高めていくための取組が一段と必要であると思う。

(3) 事務局から、今後の予定について説明を行った。

(以 上)

(問合せ先)

内閣府大臣官房政策評価広報課 独立行政法人担当

電話：03-6257-1295